

素掘池を利用したクルマエビ親養成における成長と生残

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2025-04-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 崎山, 一孝, 宮島, 義和, 足立, 純一
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014534

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



素掘池を利用したクルマエビ親養成における成長と生残
崎山一孝・宮島義和・足立純一

クルマエビの種苗生産に供給可能な成熟した親エビを、大量かつ安定的に養成する技術の開発を目的として、1993～1999年に素掘池を用いて実施した養成試験の結果から、成長と生残状況について検討した。その結果、素掘池では市販配合飼料のみの給餌で養成が可能であり、5月に体長20～30 mm、7月に30～40 mmの稚エビを収容すると、冬期に一旦成長の停滞が見られるものの、約1年で体長150 mm以上に達し、成熟個体が得られることが判明した。一方、生残率は7.7～27.4%と低く、鳥類などによる食害も観察されたが、10℃以下の低水温が最も大きな減耗要因であると推察された。

栽培技研, 30(1), 7-13, 2002